

子どもたちへの溢れる思いを行動へ

市民憲章の具体的行動例として、ここでは、平成20・21年度に応募いただいた作文・エッセーの中から、2つの作品をご紹介します。

子どもを健やかで心豊かに育む社会に向けて、社会総がかりで取り組みましょう！

平成20年度 市長賞

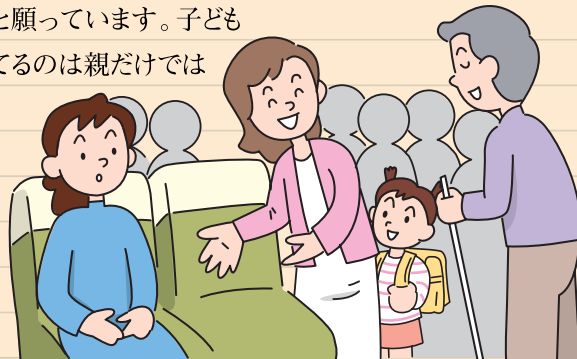
「娘から学ぶこと」奥田 留美子さん(上京区)

私は、4月から小学生になった知的障害の娘と一緒にバス通学をしています。2年生になったら一人で登校できることを目標に、4月に誕生した長男を抱っこしながら毎日三人で頑張っています。そんな娘が、12月から突然「一人でバス乗れるし！一人で行く！」と頼もしくも、驚きの一声。ランリュックをさっそうと背負い「いってきます！」と出て行く娘を急いで支度し追いかけてきました。バス停までは大人の足で5分程、娘は10分弱かかります。大通りの信号のある交差点の横断歩道を渡ったいつものバス停に、一人バスを待っている娘の姿に感動と動揺を隠せない私。一瞬悩みましたが、その間にいつものバスが到着し、娘は迷うことなく一人で乗って行きました。心臓がバクバクする中、急いでタクシーに乗り先回りして、降りるバス停で娘を待ちました。同じ学校に通学するいつものメンバーのお友達と一緒に無事降りてきました。娘の誇らしげな自信に満ちた表情は、また一步成長し、私から離れていく姿でもありました。体中の緊張が一気に解け、気付くと涙で顔がぐちゃぐちゃでした。嬉しいやら、心配やら、でもやはり喜び…言葉にできない心境でした。

その日から付添いではなく、追跡登校の始まりでした。初めの頃、お友達が「お母さんは？」と娘に聞き私を探しているようでしたが、何日かすると“一人通学しているんだ”と、察してくれたと思われ、遠くで見えていても娘を気にかけて優しく接してくれている様子がわかり、本当に嬉しく思いました。毎朝、各所で会う大人の方々も『一人で学校行くのね。えらいね。気を付けていってらっしゃい。』か何か、声をかけてくださっている様子がわかります。他にも見守ってくださっている方々が娘の行く先々には、たくさんおられることを改めて知り、感謝の気持ちで一杯になりました。

独身の頃には気付かなかった地域との関わり大切さを我が子を通して教わる日々です。付き添いバス通学中、長男を抱っこしていた私に、席をゆずってくださる心優しい方々にたくさん出会いました。そのバスには視覚障害者の方も乗車されており、席をゆずったりはもちろんのこと降りられる時のお手伝い(通路を開けてくれるように声をかけたり、出口まで誘導したり…等)を率先してされている女性には頭の下がる思いでした。時にはどなたも席をゆずって差し上げる様子がない時もありました。長男を抱っこしている私が席を立つことの方が迷惑ではないかという葛藤の中、いてもたってもいられず、席をゆずり座っていただくこともありました。それを見ていた小学生の子どもさんが私に席をゆずってくれました。子どもたちは大人の様子を見て学んでいるのだと関心しました。言葉で教えるのは簡単ですが、実践に移すのは難しいものです。しかし、子どもたちは大人の実践を見ていろいろと感じとっているのだと思いました。いつか娘も、そういう判断力がつき実践することができたらいいなと願っています。子ども

たちは皆、ピュアな心を持っています。その心を優しくのびやかに育てるのは親だけではなく、周囲の大人すべてが影響するのだと感じました。娘とのバス通学という貴重な経験を通して、私自身いろんなことを学ぶことができ感謝しています。「育児」は「育自」というように、自分自身を育てること、子どもに育てられていることを実感する日々です。これから先も、多くの壁はやってきます。しかし、必ず乗り越えられると信じ、娘の成長を、娘のペースで共に楽しんでいきたいと思います。



平成21年度 市長賞

「子どもにありがとう」河嶋 智子さん(上京区)

お恥かしい話ですが私は子どもが小学生の頃、怒って家の外へ出したことがあります。何度言ってもきかないのでつい感情的になったのです。ピンポンとすぐにチャイムが鳴りました。ドアを開けるとご近所のTさんが息子をきゅっと抱き寄せて立っておられました。

「坊やがどんな悪さをしたかわかりませんが今回は私に免じて勘弁してあげてください。」と言われました。「すみません。ごめんなさい。」私はTさんと息子に謝りました。子どもの言い分を十分に聞かずにとった行動を反省しました。「おじちゃんに声かけてもらわなかったら僕はピンチやった。」と息子は言います。見て見ぬふりをせず助けてくださったTさんに息子も私も感謝しました。

学校でも地域でも子どもを見守る力と風土のある街です。地域の良さを子どもから、子どもの大切さを地域から教えられます。子どものお陰で気づく優しさが嬉しいです。



ここでは平成20・21年度の市長賞受賞作品をご紹介しますが、入賞作品として、それぞれ5作品にきょうかん賞を贈っています。

作品は、下記ホームページで掲載しています。どの作品も子どもたちへの熱い思いと、具体的行動が描かれていますので、是非ご覧ください。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000005054.html>

平成20年度 きょうかん賞

「子どもとふれあう幸せ」	岩田 薫 さん(伏見区)
「夢を手にして」	玉岡 信子さん(右京区)
「子どもと過ごす時間」	大畑 楽歩さん(上京区)
「どんなときでもあなたの味方」	武田 寿子さん(左京区)
「絵本との出会い」	西田 智子さん(右京区)

平成21年度 きょうかん賞

「おいしいの魔法」	安宅 信代さん(伏見区)
「見守り、見守られ…」	蔭山 満子さん(左京区)
「母へ」	北村可也子さん(中京区)
「お父ちゃん、おかえり！」	内藤 力夫さん(中京区)
「生まれてきてくれてありがとう」	若林裕華子さん(西京区)